

令和4年3月17日

令和4年度 発達障害児者地域生活支援モデル事業

事業報告

社会福祉法人 はるにれの里
発達支援室なっつ 北本 麻由

今年度の取り組みについて

- ①ひきこもりケース検討会議への専門家チーム派遣
- ②ひきこもり支援ガイド作成
- ③研修会の実施
- ④企画・推進委員会でのケース検討

①ひきこもりケース検討会議への専門家チーム派遣について

発達障がい特性のあるひきこもり事例のような、多領域との連携が必要な事例について、関係機関がお互いの役割を知ることによって連携を円滑にし、支援の方向性を導き出すことを目的に事例検討を実施した。

事例検討モデルの流れ



★専門家チーム★

- ・ さっぽろ若者サポートステーション
- ・ ひきこもり地域支援センター
- ・ 相談支援事業所
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる
- ・ 医療法人社団ほっとステーション

- 🌀 事例や各区からの希望にあわせて専門家チームを構成
- 🌀 第2回研修会にて、事例を提供していたただ区の担当者（精神保健福祉相談員、保健師）より、「支援の方向性」「連携した機関の役割や機能」「事例検討を実施して多機関連携について感じたこと」についてを中心に参加者に報告。

～ひきこもりケース検討会議 研修報告～

連携した機関

今回の事例検討に参加いただいた機関と、この事例でのおおまかな役割

区役所（精神保健福祉相談員、保健師）

本人・家族：継続フォロー

医療機関

本人：退院にむけての住居の調整
今後の定期通院

就業・生活支援センター

（以下ナカボツと記載）

本人：（可能な場合）福祉的就労に
関する相談対応
関係機関：本人の就労に関するアプ
ローチの助言



※CN 発達障害者支援センター

（以下おがると記載）

関係機関：発達障がい支援の視点からの助
言、関係機関コーディネート

※CN 相談支援事業所

本人：（可能な場合）障がいサービスの情
報提供、本人の支援

※CN 若者サポートステーション

（以下サボステと記載）

本人：（可能な場合）一般就労に関する相
談対応
関係機関：本人の就労に関するアプローチ
の助言



手稲区

「父への暴力から繰り返し
警察が介入している事例」

厚別区

「親亡き後の支援について
相談のあった事例」

西区

「発達障がい疑われる
養護者への支援」

～機関連携による事例検討アンケートより～

今後もコンサルテーション（コーディネートチームの派遣や、
おがるの機関支援など）を
機会があれば利用したいと思いますか。

アンケートの一部抜粋

- できるだけしたい
- 特にしたくない

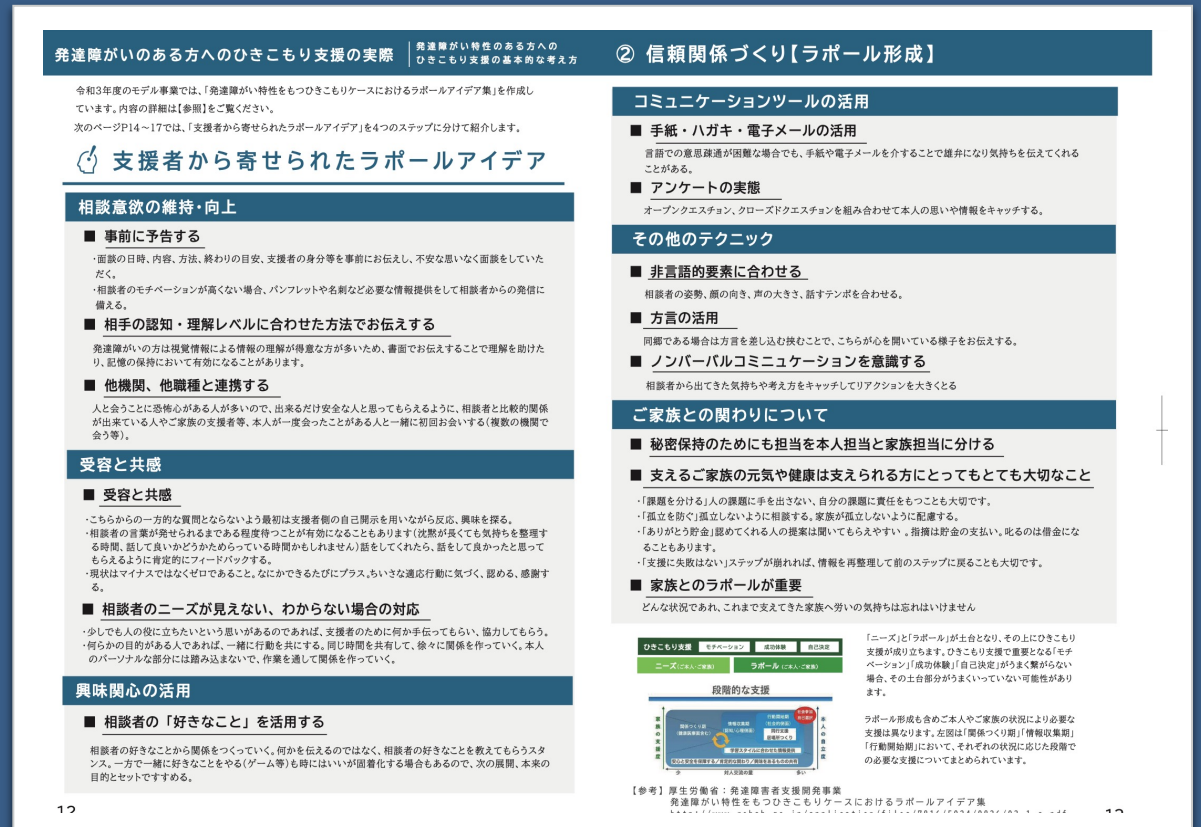


- ・ 効率的に役割分担ができる
- ・ アイディアが広がる
- ・ 他機関と協同できると多岐に渡った検討ができる
- ・ 支援に行き詰ったケースの新たな支援方針を検討できる
- ・ 他機関の視点があることで、支援の幅が広がると感じる

連携することで多角的にとらえられ、支援の幅も広がる

②ひきこもり支援ガイド作成

令和元年度より『発達障がい特性のある方へのひきこもり』をテーマに本事業に取り組んでおり、その取り組みをまとめた冊子を作成。



過去の成果物も詳細が確認できるURLとあわせて掲載

- 支援者に向けて、支援を考える際のヒントとなるような冊子にする
- 各関係機関がお互いの役割を知り、連携の際には、各々の領域を少し広げると良いかもしれないと感じてもらえるような内容にする

15

③研修会の実施

相談支援に携わる支援者に向けた研修会を2回（8月、1月）実施。地域包括支援センター、相談支援事業所、行政、医療機関等の相談業務に携わる方々にご参加いただきました。2回の研修会では、佐賀にて先進的なきこもり支援を行なっている認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス谷口仁史代表理事によるご講演、モデル事業の取り組みとしての事例報告、グループワークを行なった。



谷口先生

研修会の様子

第1回

発達障害児者地域生活支援モデルとは
発達障がいをお持ちの方、市のご家族が地域で安心して暮らしていけるよう、発達障がいの特性を踏まえた支援方法を開発、普及することを目的としています（札幌市より社会福祉法人はるにれの里が委託を受けています）。

発達障がい特性を背景にもつ ひきこもり支援のノウハウと仕組みづくりvol.1

主催：社会福祉法人 はるにれの里

発達障害児者地域生活支援モデル事業では、令和元年度より、発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースの支援に取り組んでまいりました。

本研修では、佐賀県にて先進的なきこもり支援を行っている『認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス 谷口仁史代表理事』を講師にお迎えし、ひきこもり支援についての学びを深めるとともに、これまでの取組の中から出てきたアイデアの活用方法、ひきこもり支援の仕組みづくりについてなど、皆様と意見交換や情報共有を行いたいと考えております。ぜひ御参加ください。

日時 令和4年8月26日（金）13：00～16：30（オンラインZOOM）
対象 行政機関、委託相談支援事業所、医療機関、地域包括支援センター等で相談支援に携わる職員の皆様
定員 50名

～当日のタイムスケジュール～
12：30～13：00 受付
13：00～13：20 「これまでの札幌市モデル事業の取組から見えてきた課題について」
13：20～14：50 「ひきこもり支援に共通するノウハウや配慮について」
講師 特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事 谷口仁史 先生
14：50～15：00 休憩
15：00～16：30 グループワーク（グループ発表と講師より一言）

～お申込み・お問い合わせ～
【お申込み】 Google フォーム（<https://forms.gle/2JLowtCnCWtHr8487>）よりお申込みください。
1週間前を目安に参加者の方へZOOMミーティングURLをメールにてお送りいたします。
締切8月19日（金）
※定員となり次第締め切らせていただきます。お断りの場合8月23日までにご連絡いたします。
【お問合せ】社会福祉法人 はるにれの里 発達支援室 なつ 担当：北本
メールアドレス sapporo-hattatsu@harunire.or.jp 電話 080-3694-1950

第2回

令和4年度発達障害児者地域生活支援モデル事業 第2回研修会

札幌でのひきこもり支援における 区役所と支援機関との連携の形とは

主催：社会福祉法人 はるにれの里

発達障害児者地域生活支援モデル事業におきまして、今年度は支援者の方に向けたひきこもり支援についてのアイデア集の作成や区と他機関との連携を軸とした事例検討会を行なっております。また、第一回途中経過ではございますが、上記実践の報告について、皆様と共有させていただければと思います。また、第一回の研修に続き、佐賀にて先進的なきこもり支援を行なっている谷口仁史氏をお招きいたします。ひきこもり、家庭内暴力、不登校、ニート等多様化する課題のなかで他機関連携やその仕組みづくりについてお聞きできる貴重な機会となっております。是非皆様ご参加ください。

第1回研修会に参加者から好評だった公園の動画
1/11/17にZOOMにて公開予定。
第2回研修会の前にぜひご覧ください！

参加無料
先着50名様
※締切8月17日
定員に達しお断りの場合のご連絡いたします。

～対象～
札幌市内各区役所個別支援主査、精神保健福祉相談員、保健師等のご担当者、障がい者相談支援事業所、医療機関、地域包括支援センター等でひきこもりの支援にかかわることのある職員の皆様

2023.1.24（火）オンラインZOOM

9:30～受付
10:00～ご挨拶
札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課 発達障がい担当係 東如恵係長
10:20～外部連携による事例検討モデルについての報告（厚別区、西区、手稲区）
11:30～グループディスカッション
12:15 午前の部終了

どんな境遇にある若者も見捨てない！
認定特定非営利活動法人スチューデント・サポートフェイス谷口仁史代表理事
R3年度までに58万2千件を超える相談に携わった他、ネットワークの構築や社会的受け皿の創出、執筆や講演など多彩な活動を通じて、孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。
【出演】NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」
「地球魅力化ドキュメントふるとくンガム」他
【受賞】子ども若者育成・子育て支援功労者表彰
「内閣総理大臣表彰」他

13:30～午後の部開始
スチューデント・サポートフェイス 谷口仁史代表理事より事例報告について講師
14:00～ご挨拶 社会福祉法人はるにれの里 木村理事長
15:50～質疑応答
16:00 アンケート記載後 終了

申し込み・お問い合わせ
MAIL sapporo-hattatsu@harunire.or.jp TEL 080-3694-1950
Google フォーム（<https://forms.gle/B5KPr1rSrM84Szc6>）より、お申し込みください。
開催1週間前を目安に参加者の方へZOOMミーティングのURLをメールにてお送りいたします。
社会福祉法人はるにれの里 発達支援室 なつ 北本

～研修会のアンケートより～

グループワークをするなかで多職種との連携について考えたこと

機関連携の際には、お互いの機関の役割を理解し、
役割分担を明らかにすることが大切



役割を知る・理解する

役割分担を明らかにする

コミュニ
ケーション

信頼関係

歩み寄る

ご本人との関係だけでなく支援者同士のつながりも大切に



～研修会のアンケートより～

谷口先生の講演で印象に残ったこと



事前準備・協力体制構築



アウトリーチ



伴走支援

ネットワークづくりの重要性



～研修会のアンケートより～

感想、今後の研修の希望など



グループワークは短い時間でも他機関の方とお話しでき、大変有意義でした。



普段は高齢者部門との連携が中心となるのですが、視点が狭まってしまう危険性があることを認識し他部門との連携の場にこれからも出ることを意識したいです。



他機関の方と業務について、情報共有など出来る時間があり大変有難かったです。

連携の課題

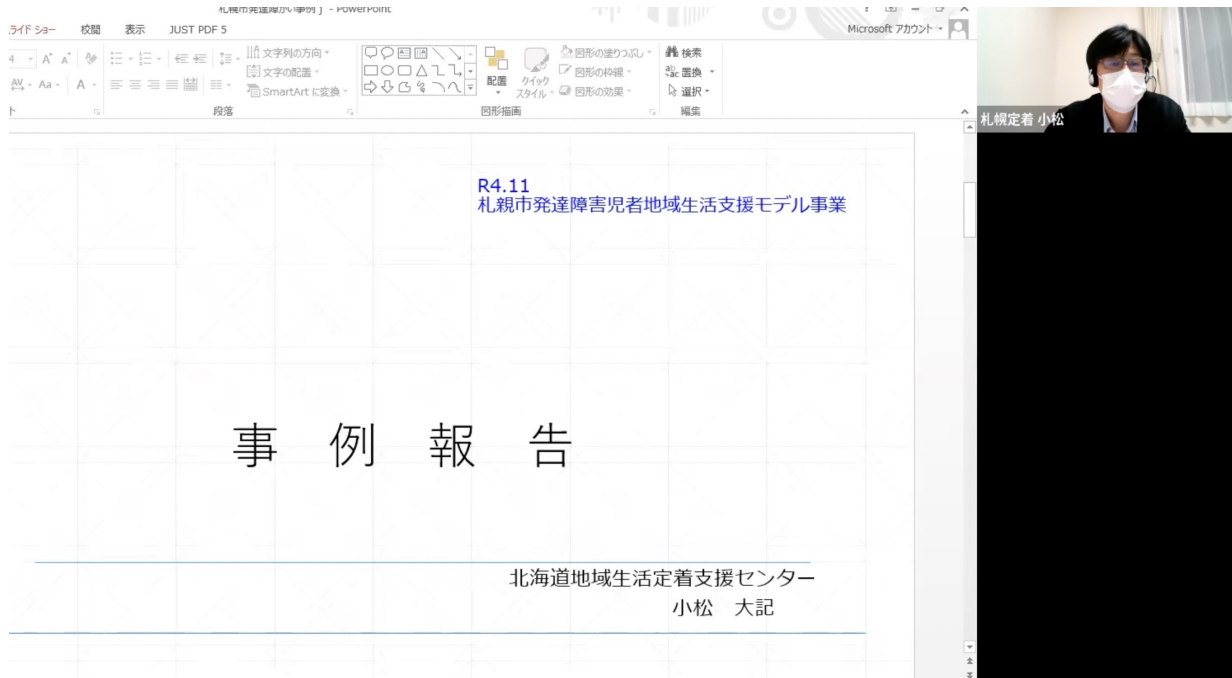


主体となって動き出す機関やまとめ役をする機関が曖昧で
役割分担されていない

コーディネーターがどの機関になる
のかで悩むケースが多い

④ 企画・推進委員会ケース検討

- 📷 ケース検討を通じて発達障がい支援における考え方の共有を図る
- 📷 ケース検討を通じて、他機関の役割や機能を知り、機関連携のありかたを探る。
- ☑ 今年度の企画・推進委員会では触法事例のケース検討を実施。



【事例提供】

- 第1回
札幌市自閉症・発達障害支援センターおがる
- 第2回
北海道地域生活定着支援札幌センター
- 第3回
北海少年院分院紫明女子学院